

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2872201039		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき加古川		
所在地	(〒 675-0034) 兵庫県加古川市加古川町稲屋890-4 電話 079-454-9575		
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年2月13日

【情報提供票より】 [平成19年11月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月15日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	12人	(常勤12人) (非常勤0人)	/ 常勤換算12.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の1、2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	24,000円	
敷金の有・無	有り (円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または、1日あたり			

(4) 利用者の概要 (平成19年11月1日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性5名) (女性13名)	
要介護1	6名	要介護2	6名
要介護3	1名	要介護4	3名
要介護5	1名	要支援2	1名
年齢	平均86歳 … (最低76歳) (最高96歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いのまた循環器科内科	いわさき歯科	しょうせ脳神経外科クリニック
---------	------------	--------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「加古川」駅の南、加古川市コミュニティバス「友沢南停留所」前にある。近隣住民など外部との交流に積極的に取り組み、開放的なホーム作りを強く心掛けている。地元の小・中学校、高等学校とも、社会見学、トライやるウィーク、総合学習、音楽会等の学校行事など、関わる機会を多く設けており、ほかにも、ボランティアの受け入れ、利用者・家族・地域の方々が一緒になって楽しめる行事をいくつか開催している。施設長は「認知症サポーター養成指導者」として、ホームの利用者のみならず、社会への認知症ケアの理解浸透に尽力・貢献されており、地域からの信頼も厚い。健康面も含めて、日々の状態に応じた細やかなケアがなされるよう、「個別対応状況表」その他、介護記録の記入について工夫を凝らしている。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①介護計画書の様式についての工夫を検討している。②「家族連絡帳」を新たに作成し、記録方法(内容)を見直したことにより、情報の共有化が進んだ。③ケース記録の取り方を「身体面・精神面」について整理することで、利用者の情報を把握しやすくなった。④介護計画の見直しを、概ね3ヵ月ごとに行なうようにし、その際の同意確認を徹底した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 全職員で自己評価に取り組み、管理者がそれをまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、入居者、家族、地域住民、自治会長、民生委員、地域支援センター職員等が出席のもとに、概ね2ヵ月に1回開催されている。会議では、地域住民側から、話し相手ボランティアや畑作りボランティアについて紹介していただき、その導入に繋がるなど、地域交流としての効果をあげている。家族からの「職員の顔と名前が一致しない」との意見に対しても、フロアに職員の顔写真・名前を掲示するようになった。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族会は、運営推進会議を同日に開催することが多く、家族としては、意見・要望を伝えやすい。毎月、「ほおずきニュース」を発行し、行事案内やお知らせとともに、利用者個々の情報を、日常の写真や文書で伝えている。相談や苦情については、いつでも、どんなことでも申し出てもらえるよう、ホームとしてその雰囲気づくりを常に心掛けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し、「餅つき」「ふれあい喫茶」「祭り」など、地域行事にも積極的に参加している。ボランティア団体の勉強会に施設長が講師として参加をしている。ホームの地域開放に積極的に取り組んでおり、地域福祉の拠点となるホームづくりを目指している。



▲ 家族からの意見の反映（職員紹介ボードの設置）

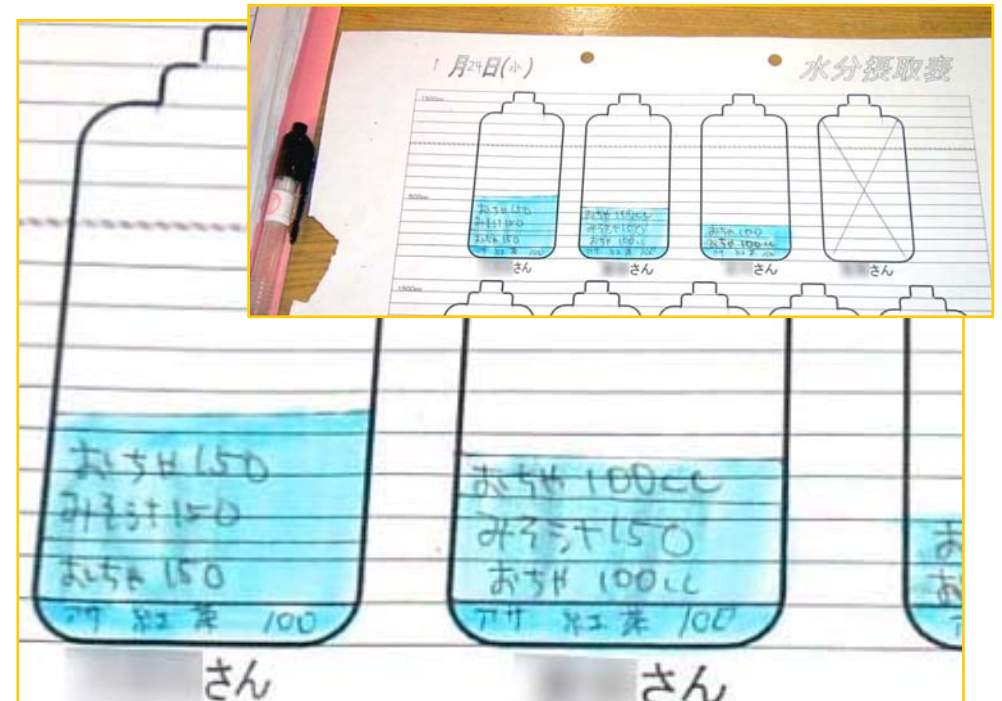


▲ 健康面・社会生活・楽しみごとの支援



▲ 居心地の良い居住空間作り（本棚、リビング）

▼ホーム外観



▲日々の水分摂取量の記録と管理（ひと目でわかる、情報共有の工夫）



▲パンの移動販売車（入居者への楽しみの支援）



▲リビングから通じる明るい庭

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「えみがこぼれる家庭…それが私のほこりです」。事業所目標を「やさしい笑顔・意識の統一・決め事の継続」に、家庭的な環境の中で、自由にその人らしく暮らせるように支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、利用者自身がこのホームで暮らすことの価値を見出せる関わり方を常に頭に置き、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との交流が活発化してきた。ホームを訪れる“話し相手ボランティア”も2団体に増えた。	○	併設するデイサービスの休日を利用し「ふれあい喫茶」をオープンしてみてもどうか？という希望がある。検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で第三者評価の意義を説明し、全員が自己評価を行なうことにより、ホーム全体の資質の向上につながっている。家族にも評価結果を郵送し、法人本部のホームページでも公開している。前回の評価で助言を受けた事柄については順次、取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者も多く活発に意見交換がなされている。提案事項や要望をお聴きできる良い機会になっている。	○	色々な意見が出されており、ひとつずつ実現していただいたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2市2町(加古川・高砂・稲美・播磨)グループホーム連絡協議会に参加をしている。加古川市の地域包括支援課との協力により、地域の住民や家族向けに「認知症サポーター養成講座」も開催できた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ほおずきニュース」を発行し、ホームの行事案内やお知らせとともに、個別に利用者の様子を伝え、写真も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも意見や要望を聴く機会を設けている。直接に意見や要望を出しやすい雰囲気を作り、外部窓口も案内している。事業主体である法人のホームページにも意見・要望を伝える窓口を設置している。職員の顔写真入りのネームボードをそれぞれのユニット出入口に掲げたのも、家族の意見を反映してのもの。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階ユニットと2階ユニット間で、2カ月ごとに一部の職員を入れ替えるローテーションを組み、職員全員が利用者と同様顔なじみの関係を築けている。職員異動の際も、引継ぎ期間を設けている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部では、全体会議を始め、新入社員研修、主任研修、施設長研修、エリア別勉強会等が実施されている。ホーム内では研修委員会が中心になって、月に1回の施設内研修や毎週の勉強会が開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム連絡協議会による勉強会(3カ月に1回のペースで開催)に参加している。各ホームで抱える問題点などをもとに話し合い、知恵も拝借しながら日々の介護の参考にしている。施設見学等も気軽に行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人や家族と話し合う機会を十分に設け、困っていること・不安なことを聴き取っている。併設するデイサービスを利用しながらホームに慣れてもらい、入居後も落ち着いた生活ができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日々、喜怒哀楽をともにしながら、「利用社は人生の大先輩」である尊敬の念を持ち、利用者からも学び(特に行儀や習慣など)、家族として支えあう関係を心掛けている。生きることの厳しさや、切なさ、家族と離れている寂しさについてはお話を聴き、学ぶことも多い。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者が中心になって、一人ひとりの思いや希望、意向を本人から聴き取り、その把握に努めている。本人意向が把握しにくい利用者の場合は、家族の希望を聴き検討している。	○	特に、個別サービス経過記録帳については、記録時間短縮のために項目を整理することが望ましい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人や家族等から自宅で生活していた頃の習慣も聴き取ったうえで、本人本位の介護計画を作成している。毎月、ケース会議を開催し、当日出席できない職員には事前に書面を提出してもらい、意見やアイデアを聞き、職員全員が利用者の情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の入居者の様子は、「連絡ノート」や「個別対応状況表」に精神面、医療面、社会面、身体面に分けて細かく記入され、それらをもとに定期的にケース会議を行ない、介護計画を見直している。「個別対応状況表」は大変見やすく、また、「就寝時・起床時ケアマニュアル」も誰が見ても分かりやすいものになっている。	○	訪問の少ない家族には見直しに関する意見を頂く機会を設けてほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスを併設しており、ホームの利用者はデイサービスの行事にも参加し楽しんでいる。地域住民がボランティアとして、定期的にホームを訪れたり、週に1回の頻度でパンの移動販売車を受け入れており、利用者の楽しみごとの一つになっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切にしているが、ホーム入居により変更する場合は、本人や家族の希望を十分に聞き、対応している。入院が必要となった場合は、協力医から、入院可能な病院を紹介してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、家族、医師、訪問看護などとの連携をとり、また、法人本部としては各ホームの環境(人的・物理的など)に応じて対応している。	○	家族等と話し合いがなされ、方針はほぼ共有できているものの、取り交し書類の整備が早急に求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者それぞれの性格や行動パターンをよく知り、声かけの際には表情や話す調子を観察しながらその人に適した会話を心掛けている。記録など個人情報の取り扱いについては、施錠できる書棚に保管するように徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、その利用者の人生経験が活かせるように声かけを行なっている。それぞれの生活ペースに合わせた支援ができるよう、職員は、柔軟に対応しているが、利用者の「人生を、こう過ごしてゆきたい」との希望には、沿えていない部分があることを感じている。	○	全職員が「その人らしさ」とは何かを理解し、選択肢を提供するなど、できるだけその人の希望に沿った支援が望ましい。「わかろうとする気持ちを持ち続けること」が最も大切であることを全職員に周知して頂きたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事委員会」を開催し、栄養士を中心に献立が立てられ、嗜好調査も行なっている。家庭菜園で収穫した季節野菜が食卓に並ぶこともある。職員は利用者と一緒に食事し、準備や後片付けも協働している。日曜日は『自由メニュー』としおり、皆でチラシを見ながら食事内容を決め、買物に行き、調理を楽しんでいる。また、外食に出たり出前をとることもある。	○	1階ユニットについては食事時は非常に静かであり、会話も少ない。利用者の意見は色々であるが、「食事を楽しむ」という観点で再考して頂きたい。場所や時間も、工夫してみてもどうか。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が必ず見守りを行ない、それぞれのADLに合わせた入浴支援をしている。入浴時間帯は大半が日中であるが、夕食後の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「行事委員会」によって、日帰り旅行や遠足など、年間行事が毎月組み入れられ、月例行事として誕生日会・書道教室・ふれあい喫茶・園芸などが豊富に提供されている。毎週パンの移動販売車が来ており、利用者の楽しみになっている。喫茶店や散歩にも、よく出掛ける。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、ホーム周辺の掃き掃除、病院へ診察券を出しに行くことなどが日課になっており、散歩やドライブに出掛けることもある。特に当てががなく外出する時には、利用者の希望に沿った場所、好む場所へ出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者各々の行動パターンを把握している。玄関は人の出入りの際に、チャイムが鳴るようにしており、日中の施錠は全くしていない。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「防災委員会」で話し合い、定期的に防災訓練が企画・実施され、館内設備も定期的な点検が行なわれている。運営推進会議の開催をきっかけに、地域住民の協力を少しずつ働きかけているところである。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持つ職員が「食事委員」になり、入居者の希望を聞きながらメニューを考えている。特に主治医の指示のある利用者については、詳細なメニューが提供されている。食事摂取量・水分摂取量を共にチェックし、個人のADL状態に合わせて食べやすいようにし、個別にメニュー変更することもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには花を植え、道行く方にも楽しんでもらい、中庭では草木や花、季節野菜を栽培し、自由に過せるようベンチを置いている。ロビーやリビングには季節の花や観葉植物、写真等を飾り、あちこちにソファを置くなど心地良く過ごせるようにしている。共用部には本棚を置き、雑誌や単行本を自由に読むことができる。テレビや音楽の音量は適当な大きさに調整され、太陽の光はカーテンやすだれで調整されるなど配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスなど、使い慣れた家具や調度品を持ちこんでいる。写真や思い出の品、昔に作った作品、大切にしていた物品なども自由に持ち込んでおり、本人にとって安心して過ごせる空間作りができています。		

※  は、重点項目。